

# 南三陸病院・総合ケアセンター南三陸



## ■南三陸町長挨拶



南三陸町長  
佐藤 仁

東日本大震災から4年7か月、ここまで国内外から多くのご支援を頂き、町は、「南三陸町震災復興計画」における復興期から発展期に向けた施策を推進させているところであります。

その主要な施策の柱の一つに捉えた南三陸病院と総合ケアセンター南三陸の整備は、医療・保健・福祉の一体整備のまちづくり具現化であり、公共施設の本設復旧の最優先で取り組む事業でありました。この整備事業には、国、宮城県、日本赤十字社、台湾紅十字組織そのほか多くの方々のお力添えがあり実現したものであります。これもひとえに関係皆様方のわが町の復興に懸けられた思いが結実したものと深く感謝申し上げます。

町は現在、町民の住宅再建のため、災害公営住宅整備、防災集団移転促進事業、なりわいの復活に向けた漁市場の整備、市街地のまちびらき当の成果が大きく形になってまいりました。

これからも賑わいのある誰もが安心・安全で、豊かさを実感できる復興を成し遂げ、未来に誇れるまちを造り出してまいります。

## ■南三陸病院・総合ケアセンターの沿革

昭和30年	3月	志津川・歌津組合病院となる
昭和50年	3月	志津川・歌津組合病院新築完成(鉄筋4階建、115床)
昭和59年	11月	公立志津川病院増築工事完成、総合病院となる
昭和60年	3月	志津川町保健センター完成
平成17年	10月	志津川町・歌津町の対等合併により南三陸町発足(町立病院となる)
平成23年	3月	東日本大震災 イスラエル医療センター(3/29~4/10) 公立志津川病院仮設診療所開設(4/15~3/31)
平成24年	3月	現南三陸町役場、公立南三陸診療所竣工式(3/27)
平成24年	4月	公立南三陸診療所診療開始(4/1~) (仮設)志津川、歌津保健センター供用開始(4/1~)
〃	6月	登米市米山町に公立志津川病院を開設
平成24年	7月	病院建設基本計画策定委員会開催(~H24.12月計6回開催)
〃	〃	総合ケアセンター整備検討委員会開催(~H25.1月計6回開催)
平成25年	2月	病院建設基本計画及び総合ケアセンター施設整備計画の決定
〃	3月	医療・保健福祉施設建設工事設計者を決定(公募型プロポーザル)
〃	7月	志津川東地区(当該建設地)造成工事着工
平成26年	5月	(仮称)南三陸病院・総合ケアセンター新築工事施工者決定
〃	7月	(仮称)南三陸病院・総合ケアセンター新築工事着工式
平成27年	10月	(仮称)南三陸病院・総合ケアセンター新築工事竣工(工期16ヶ月)
〃	11月	(仮称)南三陸病院・総合ケアセンター新築工事落成式
〃	12月	“南三陸病院”開院、“総合ケアセンター南三陸”開庁(12/14予定)



被災直後の志津川市街(右が旧公立志津川病院)(※1)



公立志津川病院仮設診療所開設(※1)



公立南三陸診療所落成式(※1)



(仮設)志津川保健センター落成式(※1)



(仮称)南三陸病院・総合ケアセンター着手時の志津川東地区造成状況



東側全景：ケアセンターと病院をダイナミックに繋ぐキャノピー。軒天井ルーバーに南三陸産材の杉集成材を活用。モミのシンボルツリーは元の地山の守り神



南側全景：白い額縁とボーダーは長大なファサードを周辺の住宅スケールに近づける(ブレイクダウン)配慮



湿式外断熱工法による外壁と稲井石(石巻産)小端積み



みなさん通り西側夕景：明快な施設構成が外観にも表れる町の憩いの場  
夜には柔らかい光が漏れ、地域の行灯となる



病院棟ピロティ：緊急時のトリアージとしても活用可能



敷地北西より志津川湾を望む(※2)：  
防災拠点市街地形成施設として、高台に移転



4床室：廊下側のベッドにも採光をもたらすハイサイドライト  
一日の光や空の色の変化を感じ取れる療養環境を実現



1床室：窓側配置の水廻りとベッドをきりこフィルムパーテーションでやわらかく仕切る



外来中待：南からの光がふんだんに降り注ぐ明るい中待合  
木製パーテーションには1床室同様、きりこフィルムを設けている



透析室：独立運営も可能なB1Fに配置(20ベッド)。



事務、医局、看護部一体の執務空間はコミュニケーションを促進



訪問看護事務室：地域の在宅医療を支える拠点

### わかりやすい動線計画

回廊型動線に沿って、総合受付、外来、各種検査の各部門が明快に並ぶ構成は、患者にとってわかりやすく単純な構成です。また、患者とスタッフのタテ動線を明確に分離し、緊急時の移動や感染対策に配慮しました。診察室をスタッフ動線でつなぐことで効率的な診療ができると同時に、器材、薬品、廃棄物の搬送経路としても活用できます。

### 一般／療養のケアミックスとした特徴ある病棟計画

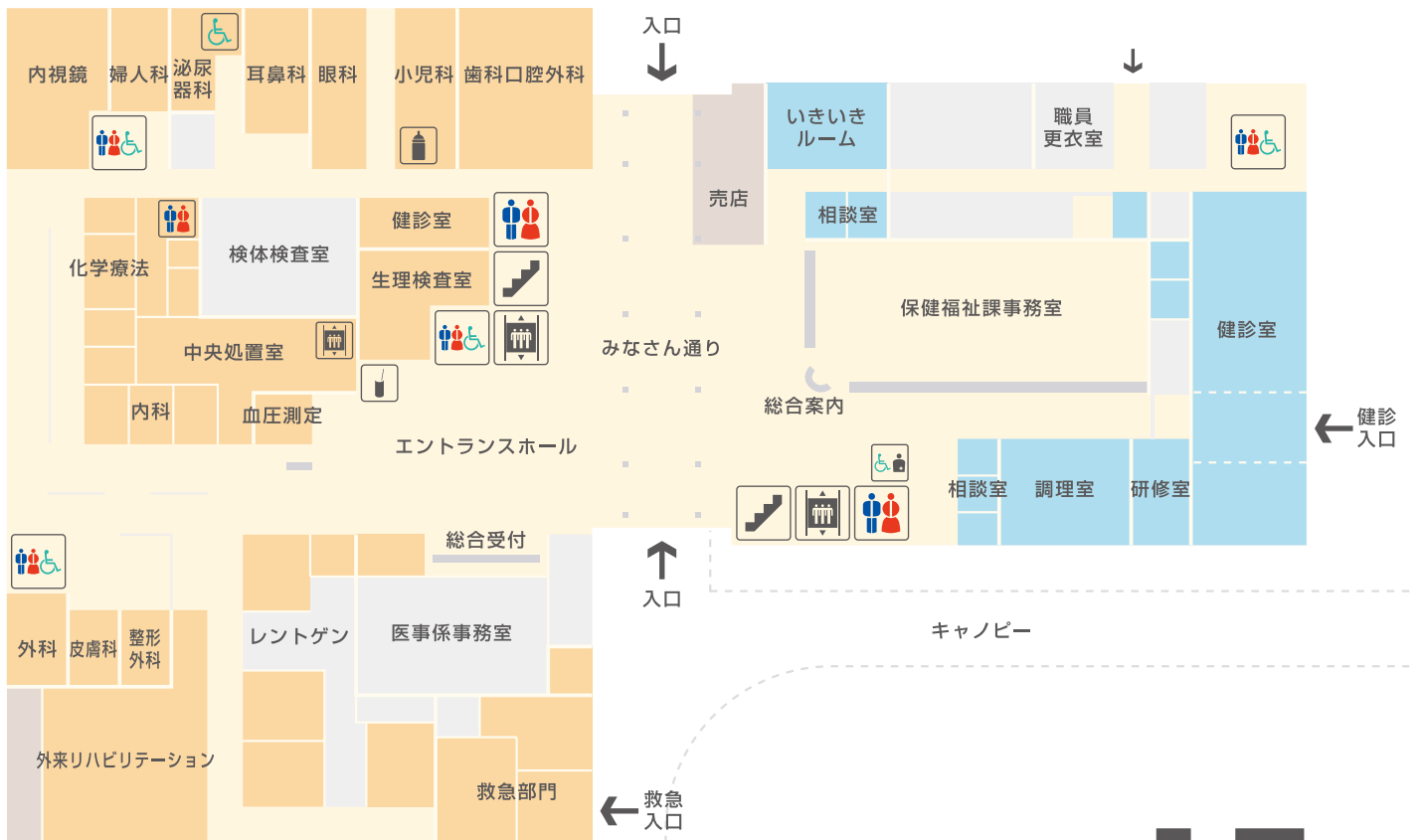
一般病棟は急性期治療空間としての稼働を高めるため、個室率を40%とし、多床室は将来の個室転用を考慮してシンプルな平面形状としました。生活環境を重視し、ゆったり過ごせる病棟環境を目指しました。病棟リハビリテーションを配置し、日常生活へのリハビリを積極的に行い、寝たきりにならないよう運営上配慮します。



B1F



みなさん通りよりケアセンター側をみる：東西のエントランスからみなさん通りに入る、いわば大きな風除室。みなさん通りを境に病院とケアセンターに分かれる稼働時間が異なる施設管理上の区分や、救急感染診察室に直接アプローチできる、交錯しない動線計画を実現。施設相互連携を視野に、2階ブリッジで連絡している。大屋根を支える木フレームはペイマツによる耐火集成材



1F



大会議室：可動パーテーションによって2室分割利用も可能



ホワイエ：トップライトからの光が注ぐブリッジとの結節点

**地域福祉拠点としての総合ケアセンター**  
 地域福祉を構成する「健康づくり」や「児童福祉」「障害者福祉」「高齢者福祉」等は、分野別に割り切ることはできません。町民の暮らしを支える地域福祉の拠点として、良質な相談体制づくりや関係機関の連携により、保健福祉サービス提供体制の充実、町民を主体として地域で支え合う仕組みの強化といった、すべての町民の暮らしを支え続ける環境づくりを目指します。



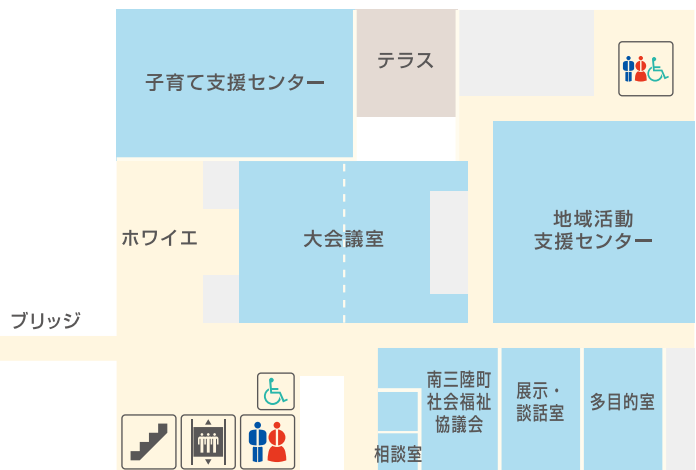
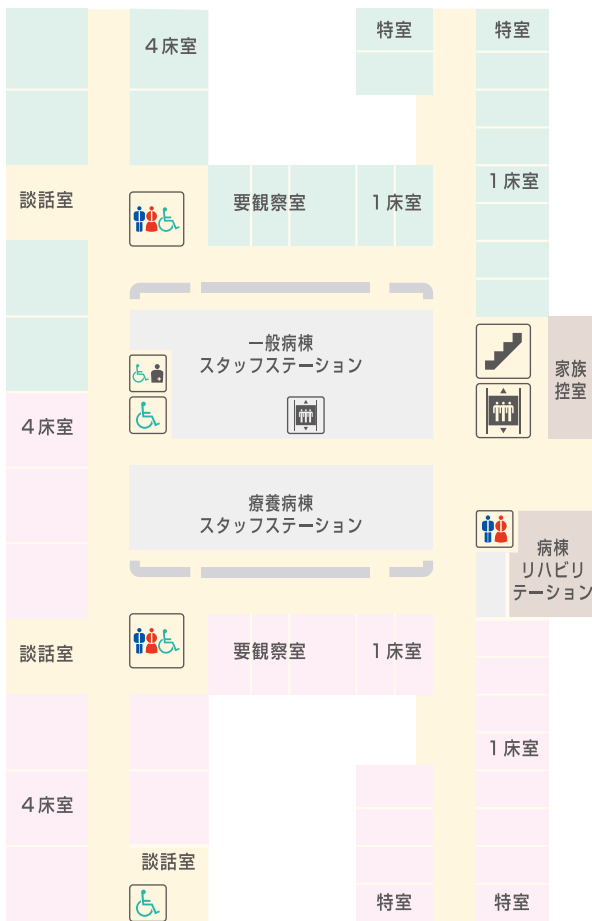
子育て支援センター：採光あふれる地域の育児支援拠点



保健福祉課事務室：利用者の案内性向上を目的に、みんな通りに面した1階にワンフロアで配置  
 総合案内カウンターを設け、ワンストップサービスによる利便性に配慮



みんな通り：町民が集う憩いの場としてラウンジ、各種イベントなど多様な活用ができる



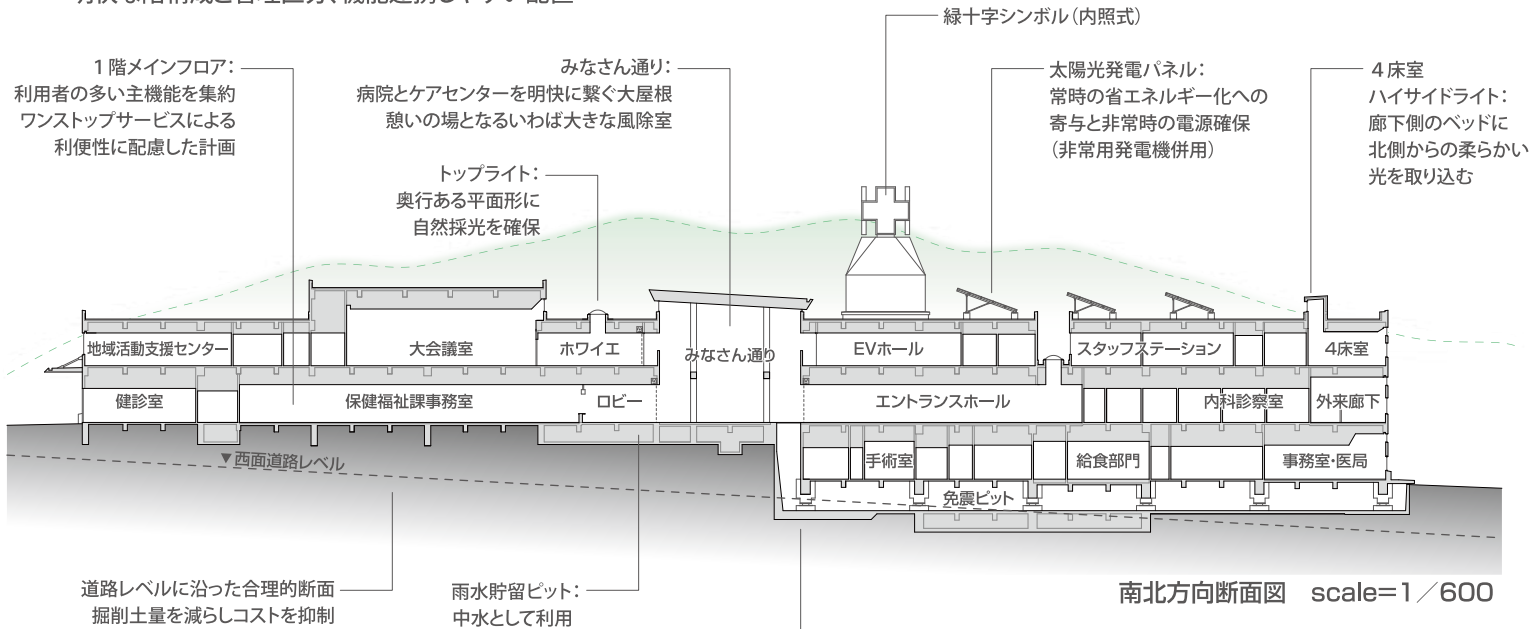
## ■建築計画に掲げる3つのテーマ



- 1. 拠点の形成と連携：南三陸町民の健康を育み、いのちを守る施設計画**
  - ・医療と保健福祉のサービスがひとつの施設で受けられる施設  
子供から高齢者まで受診し易い室内環境
  - ・緊急時災害時の避難誘導の拠点とトリアージ対応可能な施設  
病院のみならず敷地内施設全体で、治療及び避難者への支援等、緊急災害時継続可能となる施設
  - ・災害時に機能する多様なエネルギー源の確保  
電気、灯油、ガス、木質ペレットの採用とゆとりある非常用発電機の設置
- 2. 地域の特性を生かし、人にやさしく、将来対応、防災に配慮した計画**
  - ・堅固な地盤に建つ病院、冬の厳しい気象条件に配慮した施設  
病院は免震構造、ケアセンターは重要係数の高い耐震構造  
冬季の季節風を避ける玄関口の配置、温水ラジエーター・床暖房の採用
  - ・Face to face の治療と相談が可能な施設  
リアス看護ステーションの併設、感染症室や個別相談室の確保  
保健福祉課総合案内コーナーの設置
  - ・医療と保健福祉をつなぐ大空間「みなさん通り」  
ふたつの施設の玄関口、来館者の集いの場づくり、多様な使い方に対応
- 3. 地域資源活用と省エネルギー化対策の徹底、保守管理のし易さの追求**
  - ・将来の住民ニーズ等への対応  
9m×6mのグリッドを採用し、施設可変が容易な施設
  - ・ランニングコストの削減  
外断熱工法の採用、ベストミックスな熱源と蓄積型エネルギーの採用
  - ・南三陸産の材料・熱源の採用、再生可能エネルギーの活用

## ■配置断面構成

- ・造成前の山並みを大切にした建物配置、山肌を連想させる外壁
- ・強固な岩盤、大地に根ざす公共建築に相応しい佇まい
- ・明快な階構成と管理区分、機能連携しやすい配置



**ケアセンター棟：鉄筋コンクリート直接基礎構造**  
**みなさん通り：鉄骨直接基礎構造**  
 一般建物に対して1.25倍強度を高め、地震時における建物耐力に余裕を持たせた設計。極めて稀に発生する地震（数百年に一度）に対して、構造部材には影響しない計画。  
 堅固な岩盤に対して、杭を用いない直接基礎を採用。

**病院棟：鉄筋コンクリート免震基礎構造**  
 天然ゴム系積層ゴム支承、鉛プラグ挿入型積層ゴム支承、弾性すべり支承、オイルダンパーの各免震装置を合理的に配置。  
 極めて稀に発生する地震（数百年に一度）に対して建物に損傷を与えず、診療を継続可能な計画。災害時の拠点としての機能を担保。

居住環境

介護福祉

医療

建築街区全体を考慮した機能配置  
 敷地北側に災害公営住宅や新庁舎が計画されていることから、居住環境における機能連携がスムーズに展開できるよう、建築計画上の序列を形成

## ■南三陸病院

住 所：宮城県本吉郡南三陸町志津川字沼田14番地3

電 話：0226-46-3646

FAX：0226-46-3682

URL：http://www.minamisanriku-hp.jp/

病床数：90床(一般病棟40床、療養病棟50床)

診療科目：内科、外科、整形外科、泌尿器科、皮膚科、小児科、眼科、  
耳鼻科、婦人科、歯科口腔外科(計10科目)

## ■総合ケアセンター南三陸

住 所：宮城県本吉郡南三陸町志津川字沼田14番地3

電 話：0226-46-2601

FAX：0226-46-4587

URL：http://www.town.minamisanriku.miyagi.jp/

組織概要：保健福祉課、保健センター、地域包括支援センター、  
子育て支援センター、地域活動支援センター「風の里」  
ボランティアセンター、南三陸町社会福祉協議会

## ■建築概要

工事名称 (仮称)南三陸病院・総合ケアセンター新築工事

地名地番 宮城県本吉郡南三陸町志津川字沼田35番地1外

発注者 南三陸町

設計監理 株式会社岡田新一設計事務所

施 工 株式会社銭高組

工 期 2014年7月1日～2015年10月30日(16ヶ月)

用途地域 区域区分非設定

防火地域 指定なし

用 途 病院、総合ケアセンター(庁舎)

敷地面積 29,054.15㎡

建築面積 6,179.97㎡(建蔽率21.27%<70%)

延べ面積 12,267.92㎡(容積率41.44%<200%)

病 院：8,431.66㎡

ケアセンター：3,211.97㎡

みなさん通り：396.11㎡

その他付属棟：228.18㎡

構 造 鉄筋コンクリート造一部鉄骨造

基 礎 直接基礎(病院棟は免震)

階 数 地上3階、塔屋1階

最高高さ 13.94m

屋 根 アスファルト防水外断熱工法一部シート防水

外 壁 外断熱湿式工法

電気設備 受変電設備、非常用発電機、幹線動力設備、照明設備、  
弱電設備、防災設備等

機械設備 空調換気設備、給排水設備、消火設備、医療ガス設備等

昇 降 機 寝台用(17、15人乗)、乗用兼車いす用(15人乗×2)、  
寝台用兼車いす用(15人乗)

建 設 費 55億8千万円(造成工事費含まず)

※南三陸病院・総合ケアセンター南三陸の建設等資金には、  
台湾からの支援金22億2千万円が使用されています。



南三陸病院・総合ケアセンター南三陸落成記念誌  
平成27年11月25日発行  
発行／南三陸町保健福祉課  
編集／株式会社岡田新一設計事務所  
フォトクレジット／エスエス東京 走出直道  
南三陸町(※1)  
ダ・ハプランニング・ワーク(※2)

## ■周辺案内

